

カナン村



第 107 号

発行
社会福祉法人いわき福音協会
カナン村

いわき市平上平窪字羽黒 40
TEL (0246) 23-8611
FAX (0246) 23-8612
E-mail kanan@bz03.plala.or.jp



カナン村の日課の中では、讃美歌を歌い聖書の朗読と祈りを捧げることがを日々行っています。当然毎日のように讃美歌を歌っている中でお気に入りの歌に出会えることも多々あるでしょう。誰でも心に残る歌はいくつかあると思いますが、私が好きな讃美歌は三一〇番です。この歌は「しずけい」のり「で始まる歌ですがこの歌を歌手

- 一、石森山の みどりの
ふもと
遠く流れる 山なみを
見て
- 静かに いこう
我らの家は
あこがれ きたる
夢の カナン村
夢の カナン村
- 二、鐘の しらべに
目をさましては
しずかに 開く
聖書の言葉
生きがいこそは
心理に生きる
この道のほかに
道なしと 知る
道なしと 知る
- 三、ぼくは 松葉つえ
きみは 車椅子
心合わせて あせする
もろ手
働きこそは われらの
願い
- 夢遠くとも
希望は 近かし
希望は 近かし

この歌は、カナン村の開設に併せ初代の理事長だった、大河内一郎先生が作詞し音楽家の石河清氏が作曲してくれたものであると聞いています。時の流れとともにカナン村を取り巻く状況は変化し、今ではこの「カナン村のうた」を知っている人は少なくなりました。

この歌を作詞した大河内先生の心情を想像すると障害児者に対する並々ならぬ思いが窺えます。障害を負った子供さん達の医療と療育を両立させ「ただ障害児者の友として」生涯を捧げて来たことを思い知らされます。

障害を負った人達への希望と夢を与える歌として作られたものであり、聖書の教えを守り日々祈りを捧げ障害を持つ者同士が目標に向かって一歩ずつ歩んでいくことを教えてくれる歌になっているように思います。

現在、カナン村を四十数名の方が利用していますが、利用者さんの高齢化と重度化は僅かながら年々進んでいますが、たとえ障害程度が重くとも、一人一人が、自分らしく生き甲斐をもって生活して行くことを願っております。



「カナン村のうた」

所長 猪狩 忠

の森山良子さんの澄んだ声で歌ったのを聞いて改めて好きになりました。歌と言えば、久しく聞いていないのがカナン村の歌です。ここにカナン村の歌を紹介します。

ニエリスエラブリッシュ

エリコ起工式

障害児者支援センターエリコの起工式が行われ、カナン村利用者からは下山田さん、小野さん、斉藤さんが参加しました。多くの関係者らが見守る中、海野洋理事長とカナダ・ウッドグループ日本代表 ショーン・ローラー氏による入力が行われると盛大な拍手が湧き起りました。
来年一月に完成予定です。



第38回全国身体障害者施設協議会研究大会

次長 猪狩 良一

七月二十九日(三十日、国際会議場「パシフィコ横浜」)において開催された、全国身体障害者施設協議会研究大会に参加させていただきました。
今回、全国から千五百名の身体障害者施設関係職員が一同に会し、稀にみる規模の大きな全体会と、より専門的で細かなテーマ毎の分科会に分かれて、たいへん有意義な研究大会となりました。日頃得難い貴重な情報など、多くの事を学ぶ機会となりました。
全体会では、厚生労働省障害福祉課の担当者より国の取り組みなど行政説明がなされ、これからの日本の障害福祉の方向性など示されています。また、全国身体障害者施設協議会会長の基調報告では、身障協の取り組みなどの報告がなされました。社会が変化し、障害者を取り巻く厳しい環境の中で、いかに自分らしさを失わず公平に生活が

出来るよう、官民一体となり障害者を支え合う事をあらためて学ぶ事が出来ました。
記念講演では福祉ジャーナリストの町永俊男氏による「インクルージョンが未来を拓く・障害者と共生生活」を拝聴しました。氏が震災後全国を歩き回り、身体障害者に直に触れ、多くの障害者自身から発せられた生の言葉から学んだ事として、様々な生活の中で「かけがえのない存在・一人では生きていけない・つながりの中で生きていく」という理念を持っていることを痛感させられました。我々健常者と同様に、社会で生きて行く基本的な術をしっかりと持ち、基本的な繋がりを希望しており、我々と同等ならば、障害者を支援の対象ではなく、共に社会の成員として生きていけるよう、共生の社会創りをしなければならぬと説いています。
障害者施設に務める一員として、日々の利用者の生活の流れに沿った押し付けがましい支援を見直し、我々同様に隔たりなく、障害者の方々の自己責任を尊重する。そしてその人らしい生き方が出来るようなパワーメントを現せるような基本的な接し方を再認識し実施しなければ、何も変わらない事を学ぶことが出来ました。

感染症予防対策研修会



看護師 坂本 洋子

八月一日に保健福祉センターで行われた「施設等における感染症予防対策研修会」に参加させて頂きました。講話は、感染症の予防と対応、インフルエンザ・ノロウイルスを中心として、基礎研修会という事で、基礎知識、予防についてのお話と実技研修がありました。汚物処理方法・个人防护具(PPE)・着脱・手洗いチェックを行いました。基本的な手洗いや方法の説明を受け実際に行ない手洗いチェッカーによる手指の洗い残しがないかを確認することが出来ました。その後、汚物処理の仕方を防護服を着用し、練習しました。消毒液を利用し、素早く行う方法を学びました。感染を防ぐには、まずは手洗いが大事ですので施設内での呼びかけを励行していきたいと思えます。いかに早く見つけ早く治療する事で感染を防ぐ事が出来るので、日々体調管理の観察、援助をしていきたいと思えます。

障がい者相談支援従事者研修

支援員 菅野みゆき

七月二十四、二十五日と八月十九日から二十一日までの五日間の日程で平成二十六年度障がい者相談支援従事者養成研修に参加させていただきました。
平成二十四年四月から、障害福祉サービス等を利用する際には、相談支援事業所にサービス等利用計画を作成してもらわなければならないとなった。そのため、この計画の作成を担当する相談支援専門員の必要性が高まっている。今回の研修は、このサービス等利用計画作成に係る専門的な知識と技術を習得する内容であり、前半の二日間には、ケアマネジメント概論、相談支援の基本姿勢、障害者総合支援法における計画作成とサービス提供のプロセス等についての講義を聴講した。後半の三日間はグループ演習中心に行われ、事例を通してアセスメント、サービス等利用計画作成、社会資源の活用と整理、モニタリングといった一連の流れを学んだ。
研修を終え、相談支援専門員の果たすべき役割の多さを痛感し、それと同時に自分に足りないものを認識する事もできた。これを受け、日常の業務においても利用者の個性や主体性を尊重しながら広い視野を持ち、柔軟性のある支援を心掛け、施設において作成する個別支援計画についても今回、学んだ事を反映していきたい。

七月十日、いわき市平消防署の協力を得て、当施設にて救急救命講習会を行いました。

当施設では、利用者の皆さんの高齢化や、成人病などによる医療機関の利用が増えて来ています。そんな中、万が一の時の対応のため、救急救命の技術を学びました。講習会では平消防署の救急救命士他三名の署員の方達の指導で、訓練用マネキンを利用し、心肺蘇生法やAED使用の手順等をより実践的に学ぶ事が出来ました。参加職員もマネキンに対して大きな声で呼びかける等、真剣に取り組んでいました。

また、今年度は救急救命普及員研修会に鯨岡支援員が参加し、職員間での相互研修なども今後行っていく予定です。



救急救命講習会

八月二十六日、リハビリテーションの内部研修を行いました。

当施設では利用者さんの高齢化や日頃の運動不足などから、少しずつ運動機能の低下が見られます。現在、機能低下防止を目的に、毎週火曜日の午後、作業療法士の渡辺幸代子さんによるリハビリを行っています。そんな中、限られた時間のリハビリだけでなく日頃の活動や日常生活の中でも、リハビリの視点を持って支援出来る様に、内部研修を行いました。渡辺幸代子作業療法士の講義を受けた職員からは、具体的な例をあげながら活発に質問がなされ有意義な研修会になりました。

リハビリ講習会



日常のふとこま

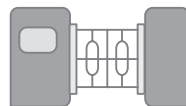


不審者対応講習

支援員 山形 未樹

平成二十六年八月一日に不審者対応講習会に参加してきました。不審者が施設内に侵入してきた際は、一人で対応しようと思わずに直ぐに職員・警察を呼ぶ、利用者さんの安全を第一に考え、自分の安全を考え対応する。凶器を所持していないか確認ができるまでむやみに接近しない。また、さすまたの使用方法につ

いて三人で、不審者一人を撃退するときに一人は不審者の前に立ち距離を保ちながら不審者の気を引き、一人は後ろから不審者の膝を突き、一人はバランスを崩した不審者の首を突く。と言った事を学びました。いざ不審者が侵入してきたら驚いて何も出来ないと思いません。そうならない為にも今回の講習で学んだことを思い出したいと思えます。



ボランティア活動



九月十三日(土)には、ふれあい手づくりサークルの六名の皆さんが来所し、日頃から作りためた雑巾六十枚をいただきました。そして早速、窓拭き作業を行いました。男子棟や女子棟の居室の窓をきれいにいたしました。

七月十四日(月)、いわき市更生保護女性会の十名の皆さんが来所し、施設の窓拭きや作業補助として活動をなさいました。利用者皆さんの、居室の窓をき

「利用者の皆さんから明るくあいさつをしていただき、ボランティア活動をして良かった。」と感想を述べられていました。また、メンバーの船生三



代子さんより、福島県産品選定品のプリザーブドフラワー(作品名 幸せ運ぶマリンブルーボード)をご寄付いただき、早速玄関に飾られました。



外出行事

単調になりがちな施設での生活に少しでも刺激が生まれればと、今年度より新しい日課として近隣への外出行事を行うこととなりました。まずは第一回の外出行事として、五月から六月にかけて複数班



に分かれて、アクアマリンふくしまと、いわきら・ら・ミュウに外出しました。どちらも市内にある観光施設ですが、利用者さんたちにとっては近くて遠い場所。アクアマリンふくしまでは水槽の中を泳ぐ色とりどりの魚や、大きな体で優雅に泳ぐオットセイの姿に感動の声が上がっていたのが印象的でした。目の前に広がる海を見ながら移動したら・ら・ミュウでは、魚料理に舌鼓を打つ方、真剣にお土産を選んでいる方、市場の様子を興味深そうに眺めている方と皆さんそれぞれが楽しんでいました。これからも、利用者の皆さんと様々な場所に出かけて楽しんできたいと考えています。

音楽のひととき

五月二十八日にチェロとバイオリンとピアノの三人組『ライトハウスアンサンブル』さんが来所され、ミニコンサートが開催されました。ライトハウスアンサンブルの



チェロやバイオリン、ピアノの生演奏を聴く機会が中々ない私達ですが、予想以上の美しい音色に聞き入り、体だけでなく心まで癒される事が出来ました。また、演奏を聴くだけでなく、生演奏に合わせる「七つの子」や「川の流るる」を一緒に合唱したり、用意して下さったさまざまな面白い楽器を手に取り一緒に演奏する事も出来ました。楽器を手に持った利用者の皆さんの笑顔といったら!!ヴァイオリン奏者の鈴木さんの言葉でもあります「音楽は笑顔を作る」をまさに感じる事が出来ました。施設に響き渡る素敵な音色に誘われるように、カナン村だ

皆さんは、音楽ホールに来る事が出来ない方々に音楽を届ける事をミッションに活動する音楽ユニットで、ジャンルはクラシックをはじめ、我々が慣れ親しんだ童謡や演歌、ポップス等幅広くカバーしておりカナン村でも多くの音楽を披露して下さいました。

けでなく周辺施設からもお客様が訪れ大反響の中終わる事が出来ました。また、聞きたくなるあの音楽：ライトハウスアンサンブルの皆さん、是非またいらして下さい。夢のようなひとときをありがとうございました!

福島県障害者体育大会

五月十八日に、いわき陸上競技場にて第五十二回福島県障がい者総合体育大会が行われ、カナン村からは男性四名の方たちが陸上競技に出場してきました。当日の天候は晴れていて気温も丁度良く、また、今年は地元開催だったので移動で疲れることなく、とても良いコンディションで競技に臨むことができました。出場種目は、百メートル走、ソフトボール投げ、砲丸投げの三種目で、出場者はそれぞれ練習の成果を出し、全員入賞してメダルをもらうことができました。出場者はそれぞれ健闘をたたえ合い、早くも来年の大会への意欲をのぞかせていました。



徒然なるままに

vol.2

暑かった夏。「男は黙って〇ビール」の日常だったのが、いつの間にか日本酒の旨い季節になった。冷や奴や枝豆、味噌などを肴に夕餉の時を過ごす。中でも酒同様に納豆や糠漬けをはじめとする発酵食品は格別である。とはいっても三男と孫は納豆の臭いが嫌だと言いつつ、未だ箸をつけようともしない。

さて、明治九年六月、明治天皇が東北へ巡幸の折、伊達郡桑折町の半田銀山にご臨幸された。その時、休憩された無能寺で桑折小学校を醸芳(じょうほう)と名付けた。この史実はあまり知られていない。(書は供奉員の木戸孝允)

醸芳の語源は広辞苑等の辞書を引いても見当たらず、調べによると淮南王劉安著「淮南子」に、賢者能士を養成すること。あたかも米麴に和して酒を醸成するように、盛んに人材を育成することとあり、まさに校名に相応しいと思えてくる。

人材育成はいつの時代でも課題であり、急ぎすぎても悠長に構えていても事は進まず、かつて山本五十六は次のように語っている。「話し合い、耳を傾け、

承認し、任せてやらねば、人は育たず」。

当法人では社会福祉法に定められている苦情解決委員会を年四回開催している。施設(事業所)の解決責任者・受付担当者、第三者委員の方々が集まり、各施設から出された苦情・要望・相談・意見等について話し合う。同席して思うことは、審議する事柄は違っても、背後に職員上位の意識が見え隠れしているように思えてならない。改めて学歴や資格以前の人間教育、人材育成の必要性を痛感する。

閑話休題、毎朝短い距離だが愛犬の散歩を日課にしている。息子たちが幼かった頃、とてもプロレスが好きで空手チョップをもじってチョップと名付けた。当然ながら生理現象は、買物の際のナイロン袋等を持つ



て始末する。夏は暑いので毛を刈ることにしているが、私の散髪代よりはるかに高い。真ダニやフィラリア(蚊)の対策も講じなければならぬ。

それでも散歩のお陰で、道行く人たちと顔見知りになり、あいさつや世間話に興ずる機会が増えた。たまに道端に咲く「ネジバナ」などの可憐な花を目にした日には、不思議に一日が楽しく感じられる。

余程のことがない限り散歩は休まないようになっている。それでも私の勝手に雨風の日などにはサボることもあり、そんな日、チョップはともつまらなそうにしている。

(チョップごめん！)
(大河内記念館)

館長 岡部 明

新採用職員紹介

五月十九日より佐藤健支援員が、六月一日より事務の佐々木美佐江さんがそれぞれ新しくカナン村の職員になりました。お二人とも施設での勤務は初めてのことですので、皆さんよろしくお願ひします！



支援員
佐藤 健さん

事務
佐々木美佐江さん

よろしく
願ひします!

☆個人情報保護法の全面施行に鑑み、紙面内写真は、本人等の了解のもと、掲載しております。

カナン村内&周辺 最新放射線量 測定結果

(2014. 8.22 現在)

玄関前	0.110
男子棟	0.073
男子棟前庭	0.111
女子棟	0.084
女子棟前庭	0.105
食堂	0.091
体育館	0.085
作業棟	0.069

平成26年5月～8月の歩み

5月	9日	内部経理監査
	11日	介護フェア in いわき 2014
	15日	監事監査 外出行事 (アクアマリンふくしま&いわき・ら・ら・ミュウ)
	18日	第52回福島県障がい者総合体育大会 (いわき市)
	22日	「日本人の食事摂取基準 2015年版」について研彦 (水戸市)
6月	27日	理事会・評議員会
	29日	外出行事 (アクアマリンふくしま&いわき・ら・ら・ミュウ)
	2日	法人役職員表彰式
	3日	いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動
	4日	平成26年度障がい者福祉施設等職員基礎研修 (郡山市)
7月	11日	平成26年度社会福祉施設中堅職員(福祉職員キャリアパス対応生涯研彦) (福島市)
	17日	防災設備取扱講習会
	18日	フードショー2014(絆)プリズムホール (東京都)
	25日	業務用食品フェア(吉成物産 スパリゾートハワイアンズ)
	2日	平成26年度福島県身体障害者施設協議会第2回理事会 (福島市)
8月	8日	カナダー東北復興プロジェクト「エリコ」起工式
	10日	救急救命法講習会
	11日	平成26年度社会福祉法人・法人事務長等研彦 (郡山市)
	14日	平成26年度キャリアパス制度理解研修 (郡山市)
	16日	いわき市集団栄養給食研究会 平成26年度職員キャリアパス対応生涯研修社会福祉施設初任者研修 (福島市)
	17日	平成26年度「退職共済事業」新任担当者事務説明会 (二本松市)
	22日	平成26年度福祉サービス第三者評価研彦会 (郡山市)
	24日	ショッピングディ1班(イオンいわき店)
	29日	第38回全国身体障害者施設協議会研究大会 (横浜市)
	30日	法人苦情解決委員会
31日	ショッピングディ2班 (イオンいわき店)	
8月	1日	平成26年度不審者対応講習会 施設等における感染症予防対策基礎研修会 (いわき市)
	8日	カナン村協会の夏季懇談会 平成26年度介護プリセプター先進事例(新人職員向けOJT)研修 (郡山市)
	18日	平成26年度応急手当普及員養成講習
19日	平成26年度福島県障がい者相談支援(障がい者ケアマネジメント)従事者養成研修 (二本松市)	



「ありがとう
ございました。」
五月三十一日をもちま
して中野紋子支援員が、
八月三十一日をもちま
して長友道子パート調理員
が退職いたしました。お
疲れ様でした。

みんなで作りました。

カナン村特製の石鯰・クリップ・ヘアゴム
です。どれもとても可愛らしく大好評な品々、
カナン野の花祭等で販売する予定ですので
是非に取って見て下さい!



あ
と
が
き

もうすぐ毎年恒例となっ
ているカナン・野の花祭が開催
される。仕事の合間を縫って
職員がそれぞれの準備に奔走
している姿を見ると、秋の訪
れを実感する。
祭りは準備をしている時の
ほうが楽しいという話をよく
聞く。自分もそう感じる一人
だ。毎年この時期は、一昔前
に夜遅くまで学内に残って学
園祭の準備をしていたことを
思い出す。共通の目標に向
かって進んでいくことは、い
くつになっても心が躍るもの
である。
さて、祭りの後には片付け
が待っている。来年のことを
考えて出した物を倉庫に戻す
だけなのだが、どうしても思
い通りにならない。そして一
年後の自分たちが苦勞するこ
とになってしまふのだ。
日常生活においても、準備
と片付けは重要だと思ふ。効
率や能率が向上し、何より安
全を確保することが出来る。
先々の事を見据えて行動を。
来年までは難しいかも知れな
いが、せめて次の日までは見
える職員でありたい。(蜜)

